学校番号	１００７

令和３年度　商業科

教科	商業	科目	ビジネス情報	単位数	２単位	年次	３年次
講座名	ビジネス情報						
使用教科書	ビジネス情報　（実教出版）						
副教材等	情報処理技能検定試験（表計算）模擬問題集２・準２級編（日本情報処理検定協会）						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

授業では必ず教科書を忘れず持参してください。パソコンを使い学習する時間もありますので、パソコンＩＤとパスワードも忘れないようにしてください。

ビジネスの世界では業務を効果的に行うために「情報ネットワーク」の活用は欠かせません。「ビジネス分野のスペシャリスト」を目指して、情報ネットワークを業務に活用できる力を習得していきましょう。

２　学習の到達目標

１．業務の情報化の必要性、情報通信ネットワークの導入と運用及びデータの保護を取り扱い、オフィス業務において情報通信ネットワークを効果的に活用するための基礎的な知識と技術を習得させる。
２．ビジネスに関する情報を表計算ソフトウェアやデータベースソフトウェアを利用して管理、分析、活用する知識や技術を習得する。
３．ソフトウェアを利用したビジネス情報システムの開発について理解し、コンピュータを活用して業務を合理化、自動化するなど積極的に推進する創造的な能力と態度を育てる。

３　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:技能	d:知識・理解
観点の趣旨	・ビジネスの諸活動において、情報を主体的、積極的に活用し、将来、職場における情報活用のリーダーとなる意欲と態度を持っている。	・適切な手段を用いて情報を収集・処理し、要求に応じた適切なシステム開発の要件を整理するなどの思考・判断力・表現力を身につけている。	・ビジネスにおける情報活用に必要な、情報の分析手法、システムの開発、ネットワークの構築などの技能を身につけている。	・ビジネスの諸活動に関する情報の意義や役割を理解するとともに、ビジネスにおける情報活用を実践するために必要な知識を身につけている。
評価方法	授業課題の提出 宿題の提出 授業に取り組む姿勢	実技テスト 宿題提出 授業へ取り組む姿勢	小テスト 実技テスト	小テスト 実技テスト

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
1ターム	ビジネスと情報	(1)情報化社会とビジネス (2)ネットワークとビジネス	○ ○	 ○		○ ○	a: ビジネスにおける情報の活用に興味を持ち、様々な情報処理システムの意義や役割について自分から進んで学ぼうとしている。また、ビジネス形態の進展やその課題について主体的に学ぼうとしている。 b: コンピュータシステムを用いた、業務の効率化や業務の支援活用について考え、適切な判断ができる。社会における新しいビジネス形態の進展やその課題について主体的に考え、判断し表現できる。 d:企業において利用されているＰＯＳ・ＣＲＭ・ＳＦＡ・ＳＣＭ・ＥＲＰなどの業務システムを学び、ビジネスにおける情報活用の基本的な知識を身につけている。また進展に伴う新しいビジネスの実際やその課題を理解している。	小テスト 実技テスト 宿題提出 授業への取り組む姿勢 観察等

1ターム	情報通ネットワークの活用	(1)ネットワークの基礎 (2)ネットワークの構築と管理 (3)サーバ管理 (4)セキュリティ管理	○	○	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	a: ネットワークの構築について関心を持ち、構築に必要なハードウェアやソフトウェアについての学習や実習に積極的に取り組もうとしている。・ネットワークの管理やデータの保護、セキュリティ管理について関心を持ち、自分から進んで知識や技術を身につけようとしている。 b: ネットワーク構築に必要なハードウェアやソフトウェアを適切に選択できる。ネットワークの特性や課題を理解し、適切な判断に基づくデータの保護やセキュリティ管理の基準が整理できる。ネットワークを設定するためのネットワークアドレスやホストアドレスを理解し、適切なネットワークの規模を判断できる。 c: 簡易なネットワークを構築するための機器の設定などの技術を身につけている。・サーバを利用した、簡易なファイルの共有管理、データの保護、セキュリティの管理などができる。・ネットワークを構築するために有線・無線LANの接続設定、ネットワークアドレスやホストアドレスの設定ができる。 d: ネットワークの構成、必要なハードウェア、ソフトウェアとその設定など、ネットワークの構築に必要となる基本的な知識を身につけている。・ネットワークの構築についての基礎的な知識から、構築に必要なネットワークの設定方法、サーバの管理やセキュリティ管理の知識を理解している。・セキュリティポリシー策定の知識を身につけている。	

2ターム	3．表計算ソフトウェアの活用	(1)集計処理 (2)オペレーションズリサーチの基礎 (3)ビジネス計算 (4)手続きの自動化	○	○	○ ○	○ ○	a: オペレーションズリサーチについて関心を持ち、表計算ソフトウェアの機能を利用した分析実習に積極的に取り組み知識・技術を身につけようとしている。・財務情報や販売情報の分析と活用を通して、ビジネスに関する様々な情報を自分から進んで分析しようとしている。 b: オペレーションズリサーチの様々な分析手法を活用して分析結果を表現できる。・財務情報や販売情報の分析結果から企業の財政状態や経営成績、販売成績などを判断することができる。表計算ソフトウェアを活用して、効率的な分析結果を適切に表現できる。 c: データベースソフトウェアを活用してデータベースのテーブル、クエリ、フォーム、レポートを作成することができる。自ら工夫して、目的に応じたデータベースの設計や作成を行うことができる。データベースソフトウェアの処理の自動化ができる。画像などのオブジェクトデータを扱うことができる。ＳＱＬによるデータベースの操作ができる。 d: データベースの役割、しくみ、整合性の構造やリレーションシップの意味が説明できる。・テーブル、クエリ、フォーム、レポートの役割と関連を理解している。ＳＱＬの文法を理解している。	

3ターム	4．データベースソフトウェアの活用	(1)ビジネス情報とデータベース (2)データベースの利用 (3)SQLの操作	○	○	○	○	a：データベースの活用に関心を持ち、ビジネスにおけるデータベースの活用方法について、自分から進んで考えようとしている。データベースの作成に関心を持ち、その学習や実習に自分から進んで取り組み知識・技術を身につけようとしている。 b：業務の特性を判断し、データベースの効果的な活用方法を思考し判断することができる。作成過程におけるエラーの処理や、作成したデータベースをより使いやすくするための修正などについて、自らの判断で正しく設計ができる。処理の内容により、マクロ機能やＳＱＬを適切に使い分ける判断ができる。 c：データベースソフトウェアを活用してデータベースのテーブル、クエリ、フォーム、レポートを作成することができる。自ら工夫して、目的に応じたデータベースの設計や作成を行うことができる。データベースソフトウェアの処理の自動化ができる。画像などのオブジェクトデータを扱うことができる。ＳＱＬによるデータベースの操作ができる。 d：データベースの役割、しくみ、整合性の構造やリレーションシップの意味が説明できる。テーブル、クエリ、フォーム、レポートの役割と関連を理解している。ＳＱＬの文法を理解している。	

4ターム	5．ソフトウェアを活用したシステム開発	(1)システム開発の基礎 (2)アルゴリズムの基礎 (3)表計算ソフトウェアによる開発 (4)データベースソフトウェアによる開発	○ ○	○	○	○	a: 情報処理システムの開発に興味を持ち、その設計や作成の方法を積極的に学ぼうとしている。ソフトウェアを用いた開発の一連の工程に関心を持ち、ソフトウェアの特色を生かした実習に積極的に取り組み知識・技術を身につけようとしている。アルゴリズムに興味を持ち、自ら進んで様々な処理を学ぼうとしている。マクロの学習に興味を持ち、自ら進んで様々な処理を学ぼうとしている。 b: 情報処理システムの開発の手順や開発モデルを理解し、各手順の目的や開発の内容を適切に説明できる。設計書の作成やヒューマンインタフェースの設計などにおいて、利用者の立場に立ったわかりやすい設計や表現をしようと工夫している。システムの特徴を理解し、適切なソフトウェアを選択しようとしている。データ処理の目的に応じたマクロを自ら考え、アルゴリズムなどに表現することができる。 c: 各開発工程において必要な設計書や報告書の作成ができる。表計算ソフトウェアを用いたマクロの作成技法を身につけ、判断や繰り返しなどの応用的な処理を自動化することができる。データベースソフトウェアを利用し、設計書に基づいて実際にシステムを構築することができる。データ処理の目的に応じたマクロを自ら考えて作成することができる。 d．システム開発における代表的な開発モデルと、ユーザインタフェースなどに配慮した開発手法について、基礎的な知識を理解させる。・データベース設計の手順やその内容について説明できる。・処理の自動化の意義やその手順を理解している。・マクロの基本的な文法を理解し、命令文を記述できる。・判断や繰り返しのアルゴリズムを理解し、マクロを記述できる。・テーブルの正規化について理解し、第３正規化までの手法を理解している。	

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　　b:思考・判断・表現
　　c:技能　　d:知識・理解

・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。